

図4 主要な干潟の分布状況

出典：環境省（第5回自然環境保全基礎調査）

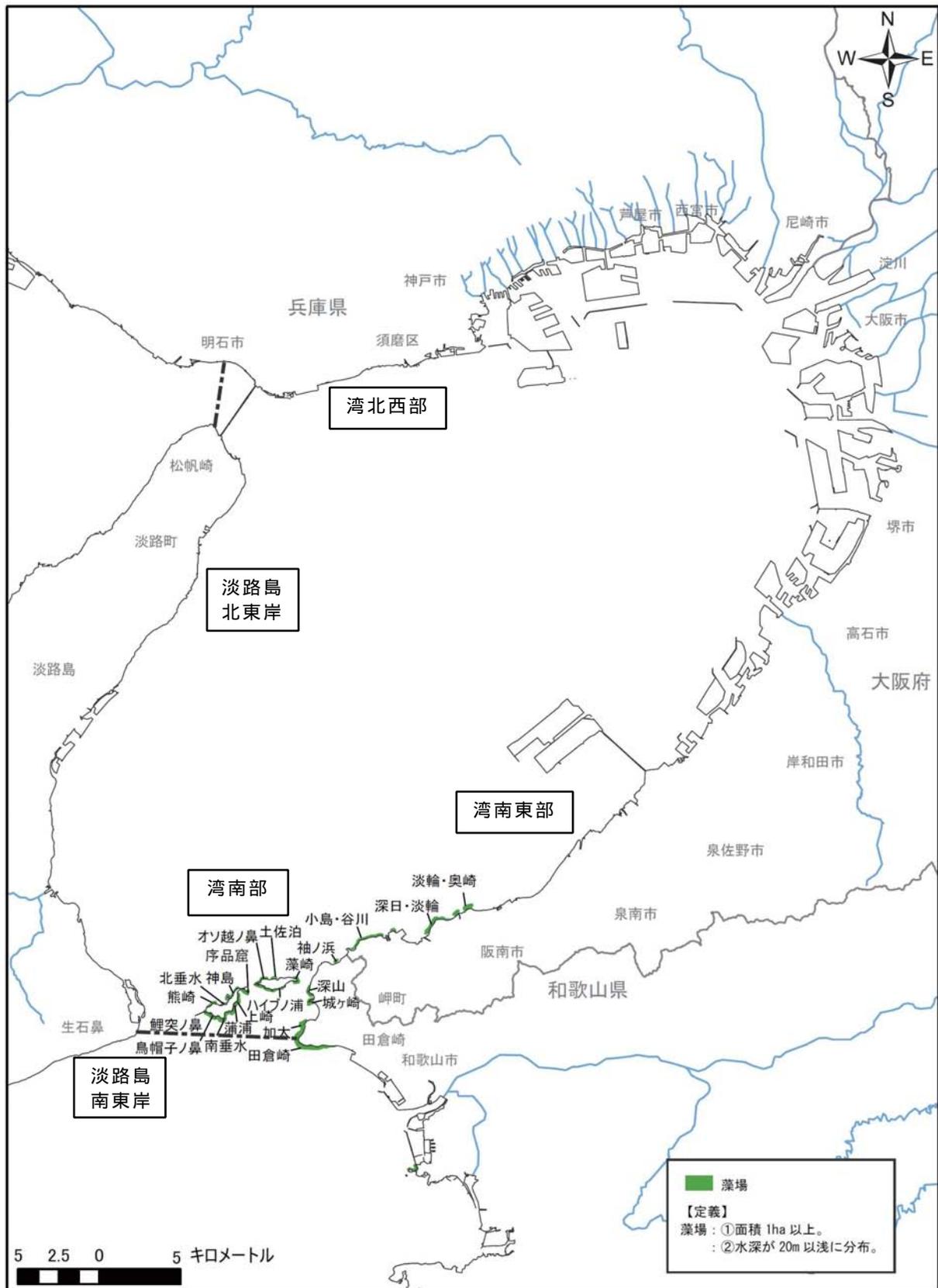


図5 主要な藻場の分布状況

出典：環境省（第5回自然環境保全基礎調査）

表 4 主要な干潟の概要

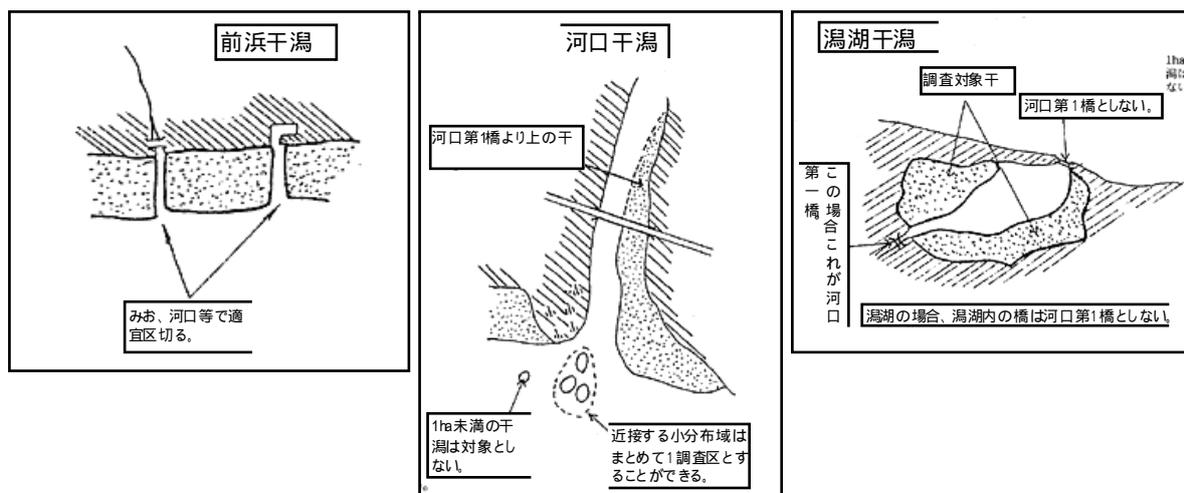
海域	府県	地名	干潟タイプ	底質	面積 (ha)
大阪湾北	大阪府	大和川河口	河口	砂	44.1
大阪湾北	大阪府	大津川河口	河口	砂	11.5
大阪湾北	大阪府	阪南2区人工干潟	人工干潟	砂	5.4
大阪湾北	大阪府	近木川河口	河口	泥	1.8
大阪湾北	兵庫県	甲子園浜	前浜	-	2
大阪湾南	大阪府	樫井川河口	河口	泥	4.1
大阪湾南	大阪府	男里川河口	河口	砂泥	5.2
大阪湾南	大阪府	尾崎前浜	前浜	砂	6.4
大阪湾南	大阪府	下荘前浜	前浜	砂	2.3
大阪湾南	兵庫県	成ヶ島	前浜	-	7
大阪湾南	兵庫県	成ヶ島	前浜	-	4
合計					93.8

注1)対象干潟 ・高潮線と低潮線に挟まれた干出域の最大幅が100m以上であること。  
 ・大潮時の連続した干出域の面積が1ha以上であること。  
 ・移動しやすい底質(砂、礫、砂泥、泥)であること。

注2)干潟タイプ 下図のとおり前浜干潟、河口干潟、潟湖干潟及びその他(人工干潟等)に分類される。

注3)調査区設定方法

現在干潟の調査区設定・面積等の把握の際には、原則同タイプの干潟が連続的に分布する範囲(分布域)を1調査区とする。ただし、分布域が長大な場合は河口、みお、航路、岬角等の地形で適宜区分することができる。各タイプの調査区設定は区分基準(下図のカッコ内)に準ずる。



注4)底質: 礫: 粒径2mm以上  
 砂: 0.1 ~ 2mm  
 泥: 0.1mm以下  
 砂泥: 砂と泥の混合

出典: 環境省(第5回自然環境保全基礎調査) 大阪府・和歌山県  
 環境省(第4回自然環境保全基礎調査) 兵庫県

表5 主要な藻場の概要

海域	府県	地名	藻場タイプ	疎密度	面積 (ha)
大阪湾北	兵庫県	須磨	アオサ・アオリ場	-	2
大阪湾北	兵庫県	平磯	ワカメ場	-	52
大阪湾北	兵庫県	舞子	ワカメ場	-	4
大阪湾北	兵庫県	西舞子	ワカメ場	-	3
大阪湾南	大阪府	淡輪・奥崎	ワカメ場、テングサ場、アオサ・アオリ場	密生	8.7
大阪湾南	大阪府	深日・淡輪	ガラモ場、アラメ場、ワカメ場	密生	22.9
大阪湾南	大阪府	小島・谷川	ガラモ場、アラメ場、ワカメ場	密生	5.2
大阪湾南	兵庫県	田之代	ワカメ場	-	6
大阪湾南	兵庫県	灘	アラメ場	-	18
大阪湾南	兵庫県	下田	ガラモ場	-	15
大阪湾南	兵庫県	釜口	ガラモ場	-	3
大阪湾南	兵庫県	佐野	アオサ・アオリ場	-	2
大阪湾南	兵庫県	生穂	アオサ・アオリ場	-	2
大阪湾南	兵庫県	大谷	アマモ場	-	6
大阪湾南	兵庫県	塩尾	アマモ場	-	2
大阪湾南	兵庫県	厚浜	ワカメ場	-	1
大阪湾南	兵庫県	宮崎鼻	アラメ場	-	5
大阪湾南	兵庫県	小路谷	アラメ場	-	1
大阪湾南	兵庫県	掛牛岬	アラメ場	-	4
大阪湾南	兵庫県	セメント	アラメ場	-	4
大阪湾南	兵庫県	内田	アオサ・アオリ場	-	2
大阪湾南	兵庫県	成山	ワカメ場	-	3
大阪湾南	兵庫県	六本松	アマモ場	-	4
大阪湾南	兵庫県	高崎	テングサ場	-	16
大阪湾南	和歌山県	深山	ガラモ場、アラメ場、テングサ場	濃生	6.0
大阪湾南	和歌山県	藻崎	アラメ場、テングサ場	濃生	5.0
大阪湾南	和歌山県	ハイブノ浦	ガラモ場、アラメ場、テングサ場	濃生	13.0
大阪湾南	和歌山県	序品窟	ガラモ場、アラメ場、テングサ場	濃生	4.0
大阪湾南	和歌山県	上崎	ガラモ場、アラメ場、テングサ場、アオサ・アオリ場	濃生	4.0
大阪湾南	和歌山県	蒲浦	アラメ場、テングサ場	濃生	6.0
大阪湾南	和歌山県	南垂水	アラメ場、テングサ場	濃生	6.0
大阪湾南	和歌山県	鳥帽子ノ鼻	アラメ場、テングサ場	濃生	5.0
大阪湾南	和歌山県	鯉突ノ鼻	アラメ場、テングサ場	濃生	5.0
大阪湾南	和歌山県	熊崎	アラメ場、テングサ場	濃生	3.0
大阪湾南	和歌山県	北垂水	アラメ場、テングサ場	濃生	1.0
大阪湾南	和歌山県	神島	アラメ場、ワカメ場、テングサ場	濃生	5.0
大阪湾南	和歌山県	オソ越ノ鼻	アラメ場、テングサ場	濃生	4.0
大阪湾南	和歌山県	土佐泊	アラメ場、テングサ場	濃生	2.0
大阪湾南	和歌山県	袖ノ浜	アマモ場	不明	3.0
合計					263.8

注1) 対象藻場 ・面積が1ha以上であること。  
・水深が10m以浅に分布すること。

注2) 藻場タイプ アマモ場: アマモ、コアマモ等が代表種(優占種)となっている藻場。  
ガラモ場: ホンダワラ類・ウミトラノオ等が代表種(優占種)となっている藻場。  
アラメ場: アラメ・カジメ・クロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。  
ワカメ場: ワカメ・ヒロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。

注3) 疎密度: 濃生: 海底面がほとんど植生で覆われている。  
密生: 海底面より植生の方が多い。  
疎生: 植生より海底面の方が多い。

出典: 環境省(第5回自然環境保全基礎調査) 大阪府・和歌山県  
環境省(第4回自然環境保全基礎調査) 兵庫県